

によりエネルギー代謝改善や神経機能向上といった中高年の肉体持久力向上など体力低下の予防につながる機能改善を示めた報告【Grade B】や高齢者に対し、エイコサペンタエン酸、ドコサヘキサエン酸含有サプリメントの摂取が認知レベルを高め運動能力及び体力の改善を示したとする報告【Grade D】など、我が国の高齢化社会のニーズに反映した検討も行われていたが、安全性を含めたより質の高い大規模な検討が求められると考え採用しなかった。以上より、今回の調査では大豆ペプチドの2件とCoQ10含有サプリメントの3件をデータベースに登録することとした。

運動(身体運動) or サプリメント	15
1+(原著論文,解説,総説,会議録除く)+ (ランダム化比較試験)	4
1+(原著論文,解説,総説,会議録除く)+ (比較試験)	7

2) Pubmed による検索:「medical exercise and supplement」のみの検索で143件が抽出された。さらに、RCT および Meta-Analysis、practice guideline、clinical trial の条件等を加味して検索すると34件のみが抽出された。RCT24件のうち、7件のサプリメント(マグネシウム、ビタミンB、L-アルギニン、クレアチン、カルニチン)を採用しデータベースに登録した。

経口マグネシウム投与(800mg/日)を心疾患患者

に投与することで心内皮細胞機能が向上し、運動能力、QOL に好影響を示唆した報告を採用【Grade B】。高齢者の認知機能に対するビタミンB群含有サプリメントの効果を示した文献を採用【Grade B】。L-アルギニンに関する文献2報がアルギニン含有食品のRCTであり、アルギニンが一酸化窒素産生を促して末梢血管拡張や血流改善に作用して心疾患患者の運動時間、トレッドミル時間、QOLスコア(SF-36)を評価し改善を示した【Grade B】。クレアチン20g/日、5日間による無酸素性の運動能力や集中的な耐久訓練への改善効果と安全性を証明した文献および運動前にクレアチン15g/日、5日間摂取したときの乳酸値の上昇がプラセボに比較して抑制されたが、運動時間の延長効果は証明されなかった文献が抽出された【Grade B】。クレアチンの持つエネルギーは筋肉が強度の高い運動を行う時に使われるので、クレアチンを筋肉に補給することで筋力を発揮しやすくなったり、筋力の持続時間の延長や筋肉が太くなりやすくなると考えられており、クレアチニンの投与量、投与期間など、さらなる検討が必要と考えられたが採用とした。5. カルニチンが欠乏した進行がんの患者を対象にL-カルニチンを初回250mg/日より開始し1週ごとに500mg増量、最終的に3000mg/日投与し、その忍容性と安全性を検討した結果、食欲不振、不眠などの生活の質の改善がはかられ、また血液データ

からも血清クレアチニンレベルの上昇やヘモグロビン値の維持・改善が認められている【Grade B】。

Practice Guideline3 件では、高血圧患者に対する抗酸化物質と魚油の効果、更年期障害に関連した神経症状の治療に対する大豆インフラボンあるいはビタミンEの効果を報告したもので運動機能改善との関連性のある記述ではないことから採用しなかった。

Meta-Analysis2 件のうち、補完代替医療におけるサプリメントの有用性を示した報告を登録した【Grade A】。

medical exercise and supplement	143
1+Limits: Humans, Randomized Controlled Trial, English	24
1+Practice Guideline, English	3
1+Meta-Analysis, English	2

## 11. 免疫関連食品

1) 医中誌による検索: 「免疫」のみでは 84340 件が抽出されたが、これに「サプリメント」の組み合わせで見ると 36 件がヒットした。そのうち原著 4 件、解説/特集が 20 件、会議録が 11 件、座談会 1 件であった。データベースに残すべきエビデンスとなる論文はなかったが、 $\alpha$ -リボ酸によるインスリン自己免疫症候群の報告、アマメシバによる閉塞性細気管支炎の報告が数例あり、注意を要すると思われた。

免疫	84340
1+サプリメント	36
2+ランダム化比較試験	
2+準ランダム化比較試験	
2+メタアナリシス	
2+診療ガイドライン	

2) Pubmed による検索: immunity and supplement、Publication Date from ,Humans,English の条件で検索し、310 件が抽出。さらに Clinical Trial、RCT、Meta-Analysis、Practice Guideline などの条件を加え検索すると 78 件が抽出された。RCT68 件のうち 11 件をデータベースに登録した。研究は健常者を対象にしたものが多く、基本的にそれらは除外した。1. Probiotic の common cold に対する治療期間短縮効果【Grade B】、2. 重度熱傷患者に対するグルタミン投与による免疫能向上効果【Grade B】、3. 閉経後女性に対する豆乳+インフラボン投与による免疫能向上効果、さらに閉経後女性については銅が免疫機能に抑制的にはたらく可能性があることを示す報告があった【Grade B】、4. 重症患者に対する Vitamin B6 投与による免疫反応に関する研究【Grade B】、5. 高齢者に対する研究としては、①アルギニン投与による肺炎球菌ワクチンの免疫反応機能向上に関する研究、②prebiotics の投与が免疫学的、抗炎症効果により利益をもたらす可能性の報告【Grade B】、③probiotics

が免疫状態を改善し、感染を制御する可能性について報告するもの【Grade B】があった。6. その他として赤痢患者に対する亜鉛投与の免疫反応の効果、妊婦に対する fish oil 投与による新生児へのアレルギー、免疫応答に対する効果などの報告があった。

immunity supplement Limits: Publication Date from 2002/1/1 to 2007/12/31, Humans, English	310
1+Clinical Trial	78
1+Randomized Controlled Trial	68
1+Meta-Analysis	0
1+Practice Guideline	0

## 12. 創傷治癒促進食品

1) 医中誌による検索:「創傷治癒」では2894件が抽出され、これに「サプリメント」の組み合わせでみると2件がヒットしたが、いずれも解説/特集であり、データベースに登録すべき論文はなかった。

創傷治癒	2894
1+サプリメント	2
2+ランダム化比較試験	0
2+準ランダム化比較試験	0
2+メタアナリシス	0
2+診療ガイドライン	0

2) Pubmed による検索:wound healing and supplement,

Publication Date from, Humans, English の条件で検索し、81 件が抽出、さらに Clinical Trial、RCT、Meta-Analysis、Practice Guideline などの条件を加え検索すると21 件が抽出され、RCTは19 件あり、内容を精査し、その中から4 件をデータベースに登録した。内容は、①熱傷患者に対する銅、セレン、亜鉛投与による創傷改善効果【Grade B】、②重症熱傷患者に対するグルタミン投与による免疫能向上効果【Grade B】、③褥瘡患者にアルギニン、ビタミン C、亜鉛を含むサプリメント投与による創傷治癒促進効果【Grade B】、④アルギニン+HMB+グルタミンによる傷のコラーゲン合成に対する効果【Grade B】、であった。

wound healing supplement Limits: Publication Date from 2002/1/1 to 2007/12/31, Humans, English	81
1+Clinical Trial	21
1+RCT	19
1+Meta-Analysis	0
1+Practice Guideline	0

## 13. 脱水改善用食品

1) 医中誌による検索:「脱水」または「脱水改善」で検索した結果2,474 件が抽出され、メタアナリシス、ランダム化比較試験、準ランダム化比較試験、比較研究、診療ガイドラインなどで絞り込むと157 件が得られた。

さらに、「スポーツドリンク」で検索すると13件が得られたが、登山者等の限定された者に限られていたため、データベースには登録しなかった。また、「サプリメント」を追加して検索すると結果が得られなかった。参考ではあるが、2001年以前に遡ってデータを検索したが、検索結果は得られなかった。「熱中症」で検索した結果1,022件が抽出され、メタアナリシス、ランダム化比較試験、準ランダム化比較試験、比較研究、診療ガイドラインなどで絞り込むと39件が得られた。さらに、「飲料」で検索すると4件が得られたが、3件は飲水に関する内容であった。1件はスポーツドリンクの希釈率に関する検討の内容でデータベースに登録した。また、「サプリメント」で検索すると結果は得られなかった。

脱水 or 脱水改善	2,474
1+(原著論文,解説,総説,会議録除く)+(メタアナリシス,ランダム化比較試験,準ランダム化比較試験,比較研究,診療ガイドライン)	157
2+スポーツドリンク	13
2+サプリメント	0
熱中症	1,022
6+(原著論文,解説,総説,会議録除く)+(メタアナリシス,ランダム化比較試験,準ラ	39

ランダム化比較試験,比較研究,診療ガイドライン)	
6+飲料	4
6+サプリメント	0

2) Pubmedによる検索:「Dehydration and supplement」のみの検索で135件が抽出された。さらに、RCTおよびMeta-Analysis、practice guideline、clinical trialの条件等を加味して検索すると13件のみが抽出された。大半がプロバイオティクスやプレバイオティクス等による下痢への効果に関する内容のものであり、サプリメントに関するものはなかった。

Dehydration and supplement	135
1+Limits: Humans, Clinical Trial, Meta-Analysis, Practice Guideline, Randomized Controlled Trial, English	13
(Dehydration and medical supplement)+ Limits: Humans, Clinical Trial, Meta-Analysis, Practice Guideline, Randomized Controlled Trial, English, 2002-2007	6

#### 14. 腫瘍患者用食品

1) 医中誌による検索:「抗腫瘍」では16646件が検索され、これに「サプリメント」を組合すと10件が抽出されたが解説/特集が9件、総説が1件であり、データ

ベースに登録すべき論文はなかった。

抗腫瘍	16646
1+サプリメント	10
2+ランダム化比較試験	0
2+準ランダム化比較試験	0
2+メタアナリシス	0
2+診療ガイドライン	0

2) Pubmed による検索: antitumor supplement, Publication Date from, Humans, English の条件で検索し、45 件が抽出、さらに Clinical Trial, RCT, Meta-Analysis, Practice Guideline などの条件を加え検索すると4件が抽出された。RCTは1件でデータベースに登録した。その1件は、H. pylori 感染胃粘膜に対する Lactobacillus brevis (CD2)投与による効果を述べた論文であった。

antitumor supplement Limits: Publication Date from 2002/1/1 to 2007/12/31, Humans, English	45
2+Clinical Trial	4
2+RCT	1
2+Meta-Analysis	0
2+Practice Guideline	0

## 15. 緩和ケア食品

1) 医中誌による検索:「緩和ケア」では5228件が検索

され、これに「サプリメント」を組合すと2件が抽出されたがいずれも解説/特集であり、データベースに登録すべき論文はなかった。

緩和ケア	5228
1+サプリメント	2
2+Randomized Controlled Trial	0
2+Practice Guideline	0
2+Meta-Analysis	0
2+Clinical Trial	0

2) Pubmed による検索:「Palliative care supplement」の検索で70件、Publication Date from, Humans, English の条件を加えると25件、さらに Clinical Trial, RCT, Meta-Analysis, Practice Guideline などの条件を加え検索すると5件に絞られ、内容を精査し、2件をデータベースに登録した。①がん性倦怠感に対する L-carnitine 療法の至適用量の検討であり、今後第Ⅱ相試験、第Ⅲ相試験でのさらなる検討が必要である。③進行がんの患者に2週間 fish oil を投与したがプラセボと比較し、食欲、倦怠感、吐き気、食事摂取量、栄養状態、QOL などに対し、明らかな効果を認めなかったという報告であった。

Palliative care supplement	70
Limits: Publication Date from 2002/1/1 to	25

2007/12/31, Humans, English	
1+Randomized Controlled Trial	2
1+Practice Guideline	1
1+Meta-Analysis	0
1+Clinical Trial	4

## 16. 骨粗鬆症用食品

1) 医中誌による検索: 「骨粗鬆症」および「サプリメント」で検索した結果2件が抽出されたが1編はランダム化比較試験の研究デザインのみで結果が得られていなかった。他1編はカルシウムサプリメントに関するメタアナリシスであり、データベースに登録した。「骨粗鬆症」および「栄養食品」で検索した結果50件を抽出し、さらに「RCT」「比較試験」「解説」では9件を抽出した。9件中「解説」に記載されている大豆イソフラボンに関する論文2件をデータベースに登録した。2件とも骨代謝マーカーに差はあるものの、骨密度に差までなかった。

骨粗鬆症	11,181
1+(原著論文,解説,総説,会議録除く)+ (メタアナリシス,ランダム化比較試験,準ランダム化比較試験,比較研究,診療ガイドライン)	620
2+サプリメント	2
1+栄養食品	50

4+(メタアナリシス,RCT,解説)	9
--------------------	---

2) Pubmed による検索: 「(Osteoporosis nutrition therapy) and supplement」のみの検索で135件が抽出された。さらに、RCT および Meta-Analysis、practice guideline、clinical trial の条件等を加味して検索すると13件のみが抽出された。「(Osteoporosis nutrition therapy) and medical supplement」では1件のみが抽出された。13件を精査したところ、大豆蛋白またはイソフラボンに関する文献が3件得られ、データベースに登録した。また過体重閉経女性の減量に関するカルシウムの有用性に関する文献が1件得られたので、データベースに登録した。

osteoporosis nutrition therapy	1,098
((osteoporosis nutrition therapy) and supplement)	135
1+Limits: Humans, Meta-Analysis, Randomized Controlled Trial, Practice Guideline, English, 2002-2007	13
((osteoporosis nutrition therapy) and (medical supplement))+Limits: Humans, Meta-Analysis, Randomized Controlled Trial, Practice Guideline, English, 2002-2007	1

## 17. 高尿酸血症・痛風用食品

1) 医中誌による検索: 「高尿酸血症 or 痛風」および「サプリメント」で検索したが結果が得られなかった。

「高尿酸血症 or 痛風」および「栄養食品」で検索した結果 12 件を抽出し、さらに「RCT」「比較試験」「解説」では 4 件を抽出した。2 編をデータベースに入力した。キトサン配合錠剤食品であり、高尿酸血症に有効であり、安全性に問題ないと報告されている。

高尿酸血症 or 痛風	3,658
1+ (原著論文, 解説, 総説, 会議録除く) + (メタアナリシス, ランダム化比較試験, 準ランダム化比較試験, 比較研究, 診療ガイドライン)	157
2+ サプリメント	0
1+ 栄養食品	12
4+ (メタアナリシス, RCT, 解説)	4

2) Pubmed による検索: 「(hyperuricemia or gout) and supplement」のみの検索で 23 件が抽出された。さらに、RCT および Meta-Analysis, practice guideline, clinical trial の条件等を加味して検索すると 2 件が抽出され精査したが、1 編は高尿酸血症・痛風に関するものではないので除外し、他 1 編はビタミン C によるランダム化比較試験であり、データベースに登録した。

hyperuricemia or gout	13134
(hyperuricemia or gout) and supplement	23

1+ Limits: Humans, Meta-Analysis, Randomized Controlled Trial, Practice Guideline, English, 2002-2007	2
---	---

## 18. 脂質異常症用食品

1) 医中誌による検索: 「脂質異常症」あるいは「高脂血症」と「サプリメント」の条件で検索したところ 57 件が検索された。これに RCT、メタアナリシス、コホート、ガイドラインで絞り込むがヒットしなかった。これ以降は、特定保健用食品として許可されている品目の成分をキーワードとして「脂質異常症」あるいは「高脂血症」と掛け合わせ、さらに RCT、メタアナリシス、コホートの条件を加味して絞り込んだ。それぞれのヒットする件数は少なく、内容を吟味して、EPA・DHA から 1 件、ポリフェノールから 3 件、茶カテキンから 2 件、グロビン蛋白分解物から 2 件、ジアシルグリセロールから 3 件、ベータコングリシニンから 2 件、リン脂質結合大豆ペプチドから 2 件、大豆たんぱく質から 2 件、キトサンから 2 件、植物ステロールから 4 件をデータベースに採用とした。

脂質異常症 or 高脂血症 + サプリメント	57
1+ RCT	0
1+ メタアナリシス	0
1+ コホート	0
1+ ガイドライン	0

脂質異常症 or 高脂血症 +EPA or DHA	139
2+RCT	3
2+メタアナリシス	1
2+コホート	0
脂質異常症 or 高脂血症 +ポリフェノー ル	21
3+RCT	0
3+メタアナリシス	0
3+コホート	0
脂質異常症 or 高脂血症 +茶カテキン	7
4+RCT	1
4+メタアナリシス	0
4+コホート	0
脂質異常症 or 高脂血症 +グロビン蛋白 分解物	4
5+RCT	0
5+メタアナリシス	0
5+コホート	0
脂質異常症 or 高脂血症 +ジアシルグリ セロール	21
6+RCT	0
6+メタアナリシス	0
6+コホート	0

脂質異常症 or 高脂血症 +ベータコング リシニン	2
7+RCT	0
7+メタアナリシス	0
7+コホート	0
脂質異常症 or 高脂血症 +リン脂質結合 大豆ペプチド	5
8+RCT	2
8+メタアナリシス	0
8+コホート	0
脂質異常症 or 高脂血症 +大豆たんぱく 質	29
9+RCT	1
9+メタアナリシス	0
9+コホート	0
脂質異常症 or 高脂血症 +キトサン	10
10+RCT	0
+メタアナリシス	0
10+コホート	0
脂質異常症 or 高脂血症 +植物ステロ ール	34
11+RCT	1
11+メタアナリシス	0
11+コホート	0



脂質異常症 or 高脂血症 + 低分子アルギン酸ナトリウム	2
12+RCT	0
12+メタアナリシス	0
12+コホート	0

全体としては、商品の製造メーカーの研究所からの報告が多くエビデンスレベルは高くないと思われる。

EPAは、高脂血症に投与するとLDL-コレステロール低下作用以上に心血管イベントを抑制する可能性がある(日本人大規模試験JELIS)【Grade B】。

ポリフェノールは、食後中性脂肪上昇を抑制する【Grade C,D】、総コレステロール・LDL-コレステロール値を低下する【Grade C】。

茶カテキンは、重合するとポリフェノールと同じで食後中性脂肪上昇を抑制する【Grade B】、また総コレステロール値を低下する【Grade C】報告がある。

グロビン蛋白分解物は、食後中性脂肪上昇を抑制【Grade C,D】する。作用機序は、腓リパーゼ阻害による脂肪吸収抑制、カイロミクロン・中性脂肪代謝の促進、肝臓における脂肪酸代謝の促進である。

ジアシルグリセロールは、トリアシルグリセロールに比して食後中性脂肪やレムナントリポ蛋白の上昇を抑制する【Grade E】。また、長期間トリアシルグリセロールと置換して摂取すると体脂肪が減少する

【Grade E】。食後脂質上昇抑制効果は健常者にははつきりせず、IGTあるいは糖尿病例で見られる(Grade C)。

ベータコングリシニンは、大豆タンパク成分のひとつであり、中性脂肪を低下【Grade C】させ、カロリーが増えないようにした配合スナック使用で体重減少・脂質改善の報告がある【Grade C】。

リン脂質結合大豆ペプチドは、LDL-コレステロール低下作用【Grade B】の報告があるが、大豆蛋白質のプロテアーゼ分解物と酵素分解ペプチンを結合させたペプチド c-SPHP を合成したグループの報告のみである。

大豆たんぱく質は、構成するタンパク自体や消化されたペプチドなど、ベータコングリシニンやリン脂質結合大豆ペプチドや大豆イソフラボンを含む総合的な結果を見ている。大豆たんぱく質のエビデンスは今回の調査の中では最も多く海外のメタアナリシスもある。総コレステロール・LDL-コレステロール低下作用がある【Grade A,C】

総コレステロール・LDL-コレステロール改善は共通だが、中性脂肪・HDL-コレステロールの改善についての結果は一定していない。

キトサンは、カニやエビの外殻などに由来するキチンを脱アセチル化したものであり、コレステロール低下作用がある可能性がある【Grade C】が、効果は

つよくなさそうである。

植物ステロールは、コレステロール低下作用がある【Grade C】との報告があるが、報告元はマヨネーズ・ドレッシング製造会社の研究所からばかりである。また、英文では有意差の出ているものがある。

低分子アルギン酸ナトリウムは、食物繊維としてコレステロール吸収抑制が考えられるが文献的評価は不明である。

(hyperlipemia or hyperlipidemia dyslipidemia or hypercholesterolemia) + supplement 1+meta-analysis	19029   115
(hyperlipemia or hyperlipidemia dyslipidemia or hypercholesterolemia) + supplement + food or dietary 2+meta-analysis 2+RCT 2+guideline	5201   9 289 2

2) Pubmed による検索: 「hyperlipemia or hyperlipidemia or dyslipidemia or hypercholesterolemia 」と「supplement」で 19029 件がヒットした。これに meta-analysis の条件を加味して検索したが 115 件と多いため、さらにキーワードを追加することにした。「food or dietary」を追加すると、5201 件のヒットとなり、

これに meta-analysis、RCT、practice guideline の条件を加味して検索した。meta-analysis の中から内容を吟味して 5 件をデータベースに採用とした。RCT では内容が雑多であり meta-analysis の方からの採用のみとした。さらに practice guideline から 1 件を採用した。

## 19. 摂食・嚥下障害用食品

1) 医中誌による検索:

摂食嚥下障害 or 嚥下障害 or 摂食機能障害 or 摂食・嚥下障害 1+サプリメント	1963  1
--	---------------

摂食嚥下障害はいろいろな表記がなされている可能性があり、摂食嚥下障害 or 嚥下障害 or 摂食機能障害 or 摂食・嚥下障害で検索し 1963 件がヒットした。さらにサプリメントと掛け合わせると 1 件がヒットした。しかし、一般的な食事に関してサプリメントを服用することが現場ではあるという事実のみの記述にとどまっており、今回の目的とは一致しないので採用しなかった。

dysphagia 1+supplement	10677  20
---------------------------	-----------------

2) Pubmed による検索: dysphagia と supplement で 20 件がヒットした。しかも、GERD に関する論文がほとんどで、摂食嚥下障害全般にわたるものでは

なかった。そのほかには、ALS 症例での嚥下障害に対する経口摂取に関する論文がほとんどで、趣旨は、このような病態の症例での経口摂取の必要性に関するものが多い。サプリメントに関する論文はなかった。

この領域では、サプリメントとしてのエビデンスはこれからであると思われる。

## 20. 胃瘻等注入食品(半固形化を含む)

### 1) 医中誌による検索:

胃瘻	2036
1+サプリメント	0
半固形化	41
固形化	158
ゲル化	123
半固形	90
以上これらすべて	244
1+サプリメント	1

胃瘻では 2036 件がヒットしたが、サプリメントでは 0 件でヒットする論文はなかった。

半固形化に関しては、その表記が多彩であることを考慮して、半固形化、固形化、ゲル化、半固形の 4 つのキーワードで検索を行なった。その総和は 244 件であった。サプリメントと掛け合わせると 1 件がヒットした。この論文は総説であり、

サプリメントのエビデンスの記載はなかった。

Gastrostomy	1675
1+supplement	6
semisolid	213
2+supplement	2
gel	10379
3+supplement	86

2) Pubmed による検索:「gastrostomy」と「supplement」で 6 件がヒットした。しかし、胃瘻栄養の利用を述べており、サプリメントのエビデンスにはつながらない論文である。半固形化は「semisolid」として検索したが、半固形化での論文は 2 件のうち 1 件で、これも血糖変化に対する記述があるのみで、目的とする論文とは言えない。また、半固形化はゲル化とも表現されるため、「gel」として検索した。24810 件がヒットし、「supplement」と掛け合わせると 86 件が該当した。しかし、半固形化と同義語としてのゲル化の意味で検索されているケースはほとんどなく、経口摂取の形状としてのゲル化の記載がある程度の文献しかない。これらは半固形化などの栄養剤の形状機能変化による効果等を述べているのではなく、そういったサプリメントをさすものでもない。

この領域では、半固形化に利用されるサプリメントが今後エビデンスとして出てくる期待はある

が、今回検索した限りではエビデンスとして採用すべき論文は無かった。

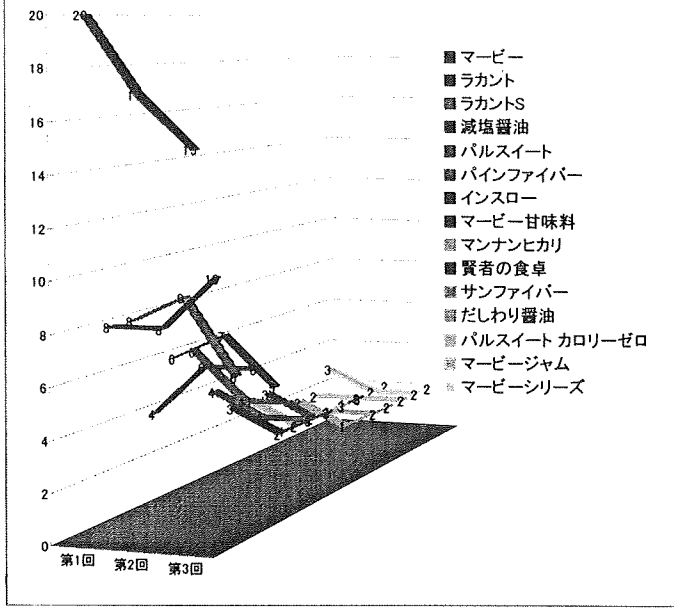
## NSTにおける特別用途食品および栄養機能食品の使用状況

NSTの活動状況や質の保証を考慮して2008年度当初における第三者機関日本栄養療法推進協議会の第1回、第2回、第3回のNST稼働施設認定を取得した計913施設(第1回:653施設、第2回:189施設、第3回:71施設)に対して書面・郵送にて協力を要請した。そのうち、各施設の倫理委員会や管理者を通して協力の同意が得られた758施設(第1回:248施設、第2回:254施設、第3回:256施設)を対象とし、NSTにおける特別用途食品および特定機能食品などの病者用あるいは高齢者用食品の使用状況について調査を実施した。調査対象期間は2008年1月1日から3月31日までの第1回調査と2008年4月1日から9月30日までの第2回調査、2008年10月1日～2009年3月31日までの第3回調査に分けて実施したが、実際には調査の回答が得られた施設は第1回調査が125施設、第2回調査が93施設、第3回調査が94施設の延べ312施設(施設の重複あり)であった。この312施設でのデータはウェブサイトを用いて各施設の代表者が直接入力するものとした。

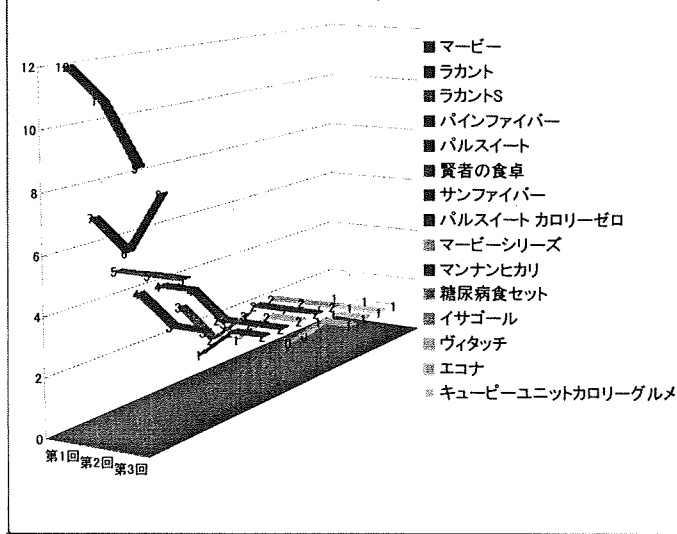
特別用途食品および特定機能食品の使用状況を第1から第3回の調査ごとで上位15位までの食品についてその動向を示した。なお、グラフ内の数値は、食品使用施設数を示している。しかしながら、例えNSTといえども特別用途食品や特定機能食品の定義が臨床の現場まで十分に浸透しておらず、それぞれの範疇に分類されない食品がデータ入力されている場合が認められた。今回は、これらのデータをそのまま報告書としてまとめている。

## NSTにおける特別用途食品の使用状況

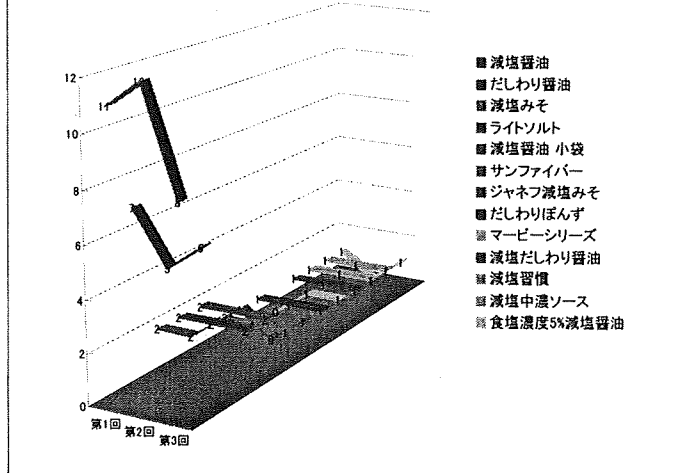
①糖尿病



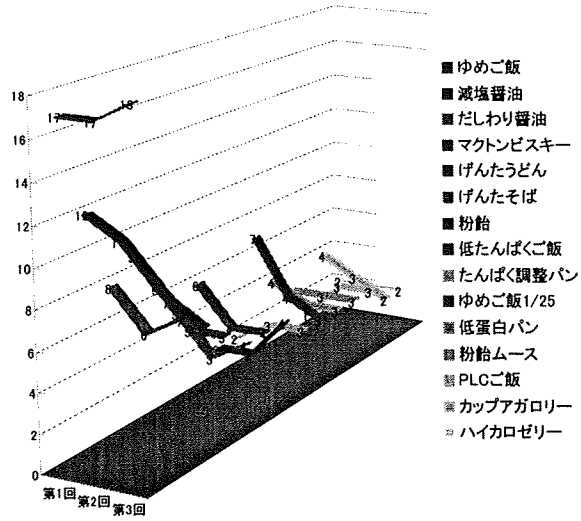
②肥満



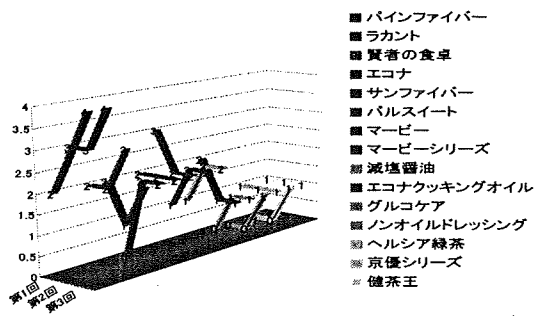
③心臓病・高血圧症



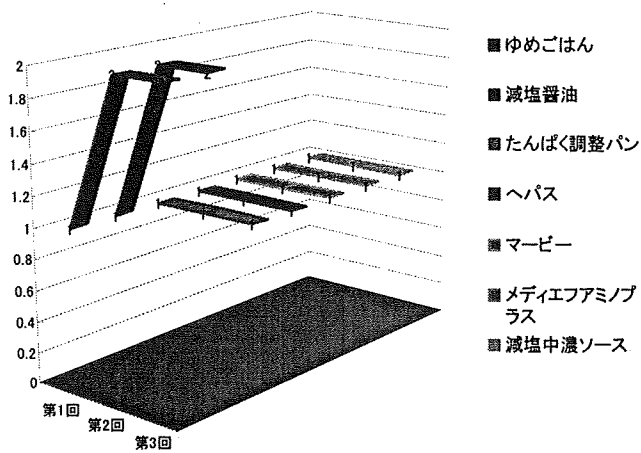
④腎臓病

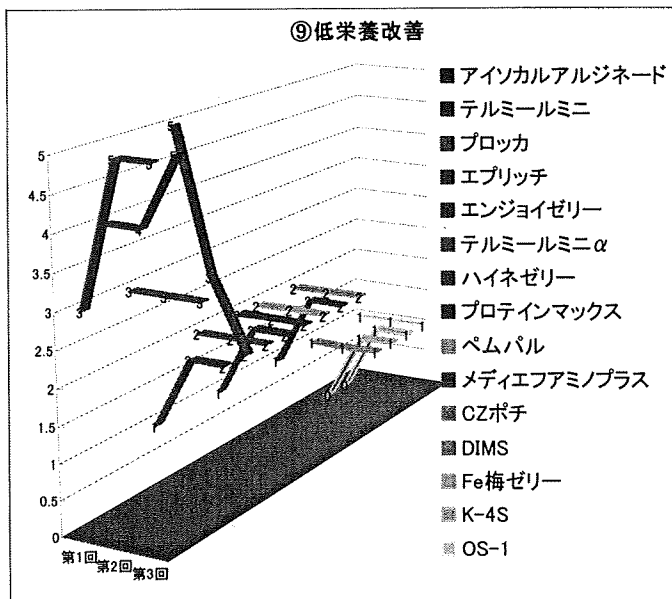
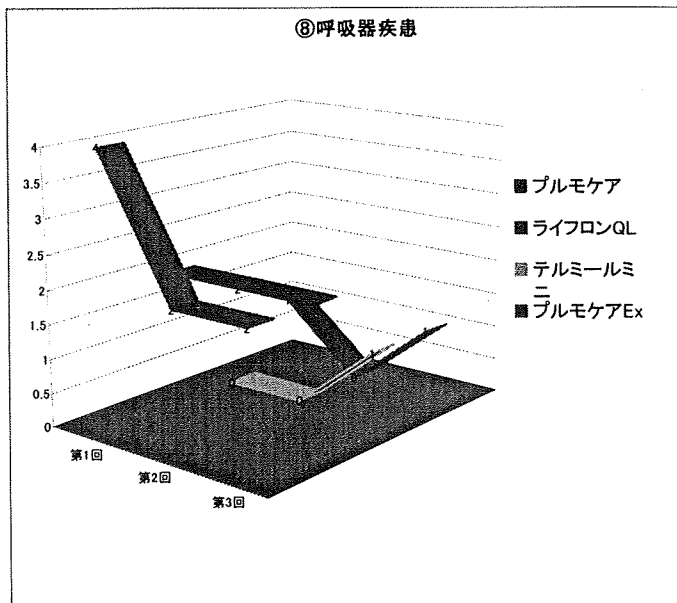
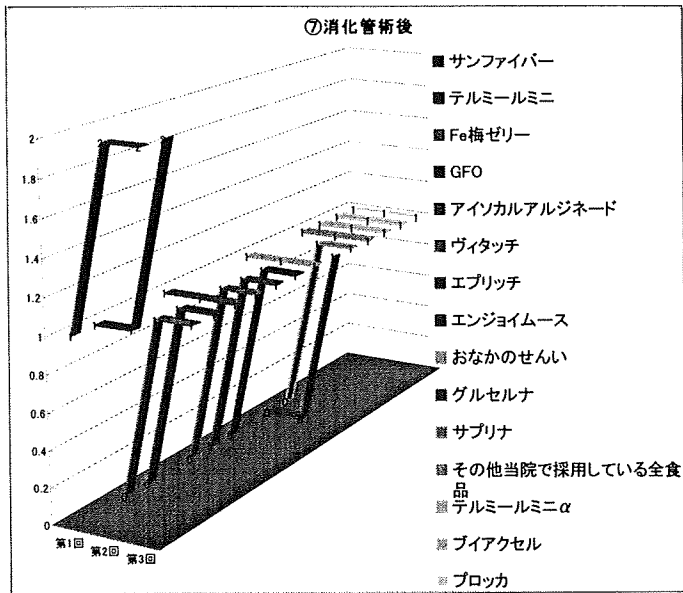


⑤高脂血症



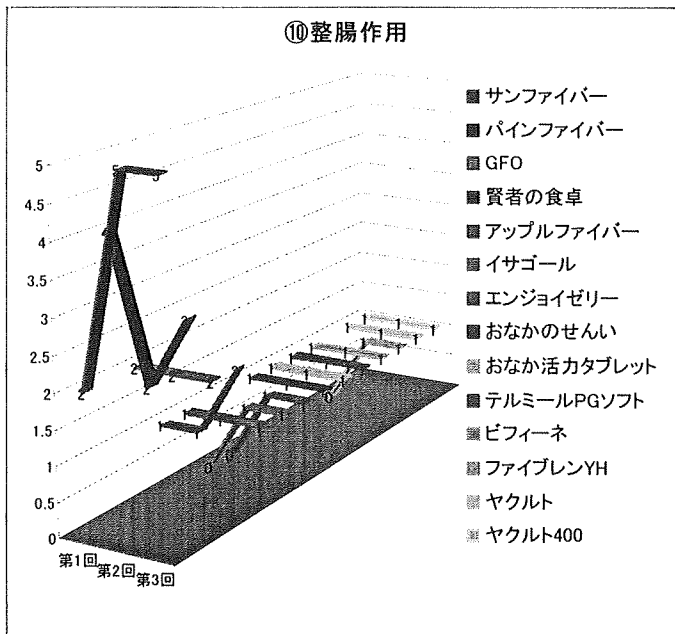
⑥肝臓病



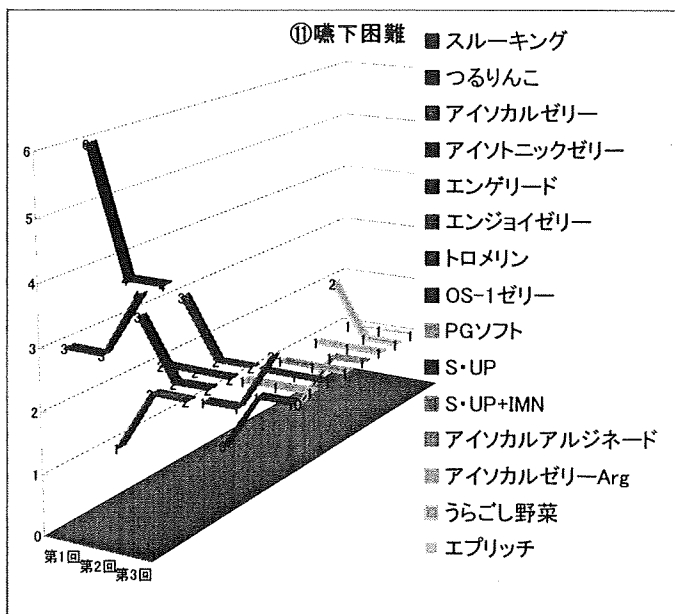




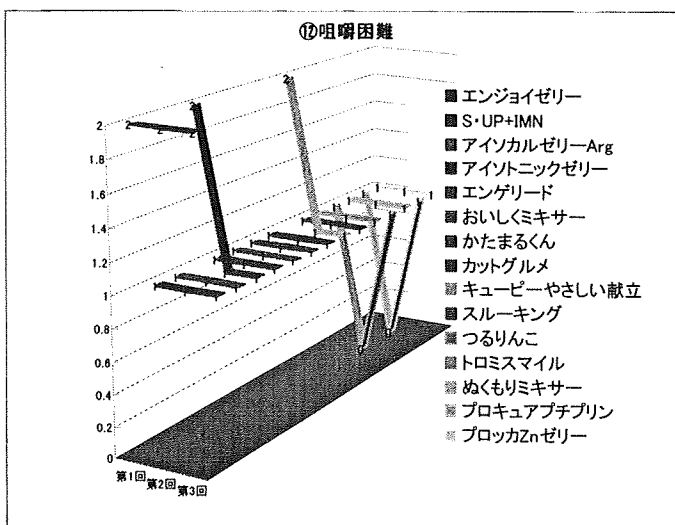
### ⑩整腸作用



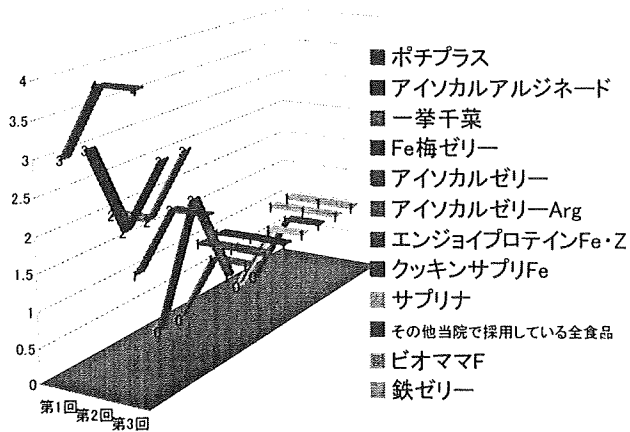
### ⑪嚥下困難



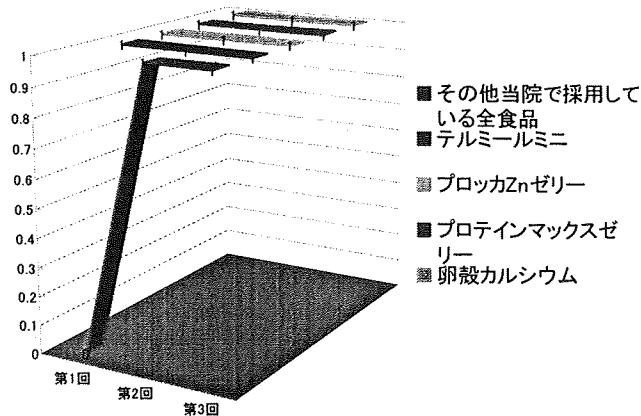
### ⑫咀嚼困難



⑬貧血(予防を含む)



⑭骨粗しょう症(予防を含む)



⑮褥瘡

